

「カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた道徳教育の充実」
 ～『特別の教科 道徳』における質の高い学習指導と評価～

京都産業大学 柴原 弘志

1 全面実施を迎えて

「道徳の教科化」を最大限に生かす!! ⇒ 道徳教育の実質化・更なる充実

◎ カリキュラム・マネジメント ← 学校評価による検証(→諸計画の実効性)
 (特に量的確保と質的改善・充実)

道徳科の目標やそれぞれの時間のねらいの実現へ向けた効果的な授業づくり
 道徳科授業の質的改善・充実 ⇐ ⇐ P・D・C・Aサイクルの確立

↑ ↑

学習状況(学習活動への取組状況)や道徳性に係る成長の様子を
具体的に想定する!!(指導と評価の一体化)

2 「評価の観点」と「評価の視点」から考える質の高い学習指導と評価

◎ 評価の対象は◇教育活動 と ◆児童生徒

◇道徳教育・道徳科の授業 ⇐ 「評価の観点」⇔取組や授業改善

◆学習状況及び成長の様子 ⇐ 「評価の視点」⇔学習・成長への意欲(授業改善)

学習活動の改善・学習や道徳的成長への意欲の向上⇒豊かな道徳性の確かな育成

◇ 学習指導過程や指導方法に関する評価の観点例

(「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」以下「解説 道徳編」)

- ◇ 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の(人間としての)生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか
- ◇ 発問は、児童生徒が(広い視野から)多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか
- ◇ 児童生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童生徒の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか
- ◇ 自分自身との関わりで、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか
- ◇ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童生徒の実態や発達の段階にふさわしいものであったか
- ◇ 特に配慮を要する児童生徒に適切に対応していたか

道徳科の目標・特質やそれぞれの時間のねらいの実現へ向けた効果的な授業づくり

◎ 「特別の教科 道徳」の目標 (極めて重要 「主体的・対話的で深い学び」は基本)

「(前略)よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の生き方(人間としての生き方)についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」

(「学習指導要領」)

◎ 「特別の教科 道徳」の内容

「教師と児童(生徒)が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題である。」(「解説 道徳編」)

◆⇒◇「評価の視点」の文末等を替える⇒「評価の観点」として捉える!!

⇒⇒ 道徳科における指導と評価の一体化

◆ 道徳科における学習状況等に関する評価の視点例 (「解説 道徳編」)

(⇒「評価の観点」例ともなる!!)

・ 学習活動において児童生徒が、道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、

◆ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか (⇒～考えられる学習指導となっているか)

② 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか

③ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか (⇒～考えられる板書が工夫されているか)

◆ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

④ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか (⇒～考えられる発問が工夫されているか)

⑤ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているか

⑥ 道徳的な問題に対して、自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているか (⇒～更に深められる問い返しは効果的か)

⑦ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているか (⇒～捉え、考えられるような学習活動が工夫されているか)

↑ ↑ ↑ ↑

児童生徒の学習状況等の姿・ワークシート記述内容の評価分析の視点

・ 授業中 ○ワークシート等 ← 受容語・評価語を積極的に使用!!

例 ・ 自分の事として考えられたね ・ 他の人の意見と比較しながら発言できたね

・ これからの自分の生き方に触れながら振り返ることができたね

○ 自分の生活や体験からの思考・振り返り ← 一本線

○ 他の人の意見を踏まえた思考・振り返り ← 波線

○ これからの自分の生き方に触れた思考・振り返り ← 二重線

「評価のものさし」を教師だけが持っていてよいのか?!! ⇒ 児童生徒と共有

◇ 「何を学ぶのか」 + 「どのように学ぶのか」 = 児童生徒の重要な学び

「内容知」 + 「方法知」の学習⇒質の高い学習活動⇒豊かな道徳性の確かな育み

実践例

☆ 振り返りカード(シート)の項目例 自己評価例(あくまでも児童生徒の学習活動)

- ・ 登場人物を通して自分が考えたりした内容を発表することができたか
- ・ 発言している人の考えを自分と比べて聴き、理解しようとすることができたか
- ・ 他の人の発言に関連させて、自分の考えを理由をつけるなどして、詳しく語ることができたか
- ・ 自分の生活や生き方について考えることができたか

☆ 「考える」・「語る」・「記述する」ポイント(小中の学年段階に応じた項目を系統的に学級掲示)

次のような観点を意識しましょう!!

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ・ <u>めあて・学習課題</u> に | 触れながら |
| ・ <u>登場人物と自分を重ねたり、比較したりしたこと</u> に | |
| ・ <u>根拠・理由や具体例</u> に | |
| ・ <u>これまでの自分の生き方</u> に | 触れながら |
| ・ <u>これからの自分の生き方</u> に | |
| ・ <u>自分の考えなどの変化</u> に | |
| ・ <u>他の人の考え</u> などに | 触れながら |

◎一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について

特に顕著と認められる具体的な状況を記述する。(⇒児童生徒や保護者における理解)

これまでにみられる実践事例『道徳(科の時間)に関する記録欄(通知表等)』

- ◆「話し合い活動では、積極的に自分の考えを述べるだけではなく、友だちの多様な意見を聞きながら聞き、自分の生き方についての考えを深められるようになりました。」(学習状況中心)
- ◆「教材の中の登場人物の迷いや悩みを自分のことのように捉え、そうした場ではどのように判断するのがよいことなのかを根拠に基づいて考えられるようになりました。」(学習状況中心)
プラス + + + + + プラス(ミックス)
- ◆「たとえば、『はしの上のおおかみ』での学習では、主人公のおおかみと同じような動作をすることから、親切にする気持ちのよさを感じ、これから身近にいる人たちに親切にしたいという思いをより深くもつようになりました。」
- ◆「教材の中の手品師の生き方から、誠実に生きることを自問自答する姿がみられました。学年末には『自分自身に対しても誠実に生きることが大切だ』と記述するまでになりました。」
- ◆「たとえば、真の友情について考えた学習では、皆の意見を参考にしながら深く考え、仲良しだけの関係から、互いを高め合い成長できる関係であるという理解を深め、これからはそうした友達関係をつくっていかうとする記述がみられるようになりました。」
- ◆「『主として人との関わり』に関する学習では、体験を基に自分を深く見つめ、自分とは異なる意見からも学ぼうとする意識をもち、特に相手のことを思いやることの大切さの理解を深め、謙虚な心・広い心で相手を認め、尊重していこうとする発言や記述がみられました。」等々

⇒ ◆学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、「評価の視点例」を踏まえた評価 + ◆児童生徒や保護者にその学習状況や道徳性に係る成長の様子が伝わる評価
一般的には (← 目標・内容等を踏まえ、児童生徒や保護者の理解を考慮し、評価の趣旨を実現)

「～の学習活動への～といった取組状況のもと、多様な感じ方や考え方の交流を通して、～の観点から～に気づき、～という考え(理解・心情)を深めるとともに、～への憧れを強め、～しようとする発言・記述がみられるようになりました」等々 (⇒その実践研究の蓄積とその成果の共有化)
(もちろん、すべてが他の教科と同質ということではなく、長期的・継続的評価意識やスキルも必要)
ただし、あれもこれもはできない! (評価の理論的可能性と実際の評価活動の実現性は異なるもの)
各学校及び学校間で、実践を交流・共有・改善し、できるところからできることを着実に!!

評価の方法例(基本は観察と言語分析)

誰が・・・授業者、児童生徒、他の教師等(児童生徒による評価(受け止め)を生かす)
どのようにして・・・授業中の観察・授業中の発言や記述内容の分析(ノート等の活用)
児童生徒による自己評価(振り返り等)や授業アンケート等の活用
他の教師による評価の活用
授業前後の観察・授業後の面談や記述内容等の分析
「ポートフォリオ」等を生かした評価(⇒ノート・ファイルの活用等) etc

なお、学習状況や道徳性に係る変容や成長は、比較的短時間に現われるものもあれば、長期にわたる指導にまつものもある。多面的・組織的・計画的・継続的評価も必要である
個人内評価として、道徳的成長を認め励ますものにしたい!!

3 今後さらに充実させたい取組

- ◇ すべての子どもたちの道徳的成長を促進する包括的取組の推進(家庭・園・学校・地域等々)
- ◇ 教材や中心発問等の系統性・発展性の検討と小中連携に基づく取組の充実(ex 重点項目)等々
- ◇ 道徳教育・道徳科の授業や評価に対する保護者等の理解を促進する取組
- ◇ 各学校における組織的・計画的な取組の充実と具体的な評価方法の蓄積と交流・共有・改善



我が国の道徳教育そして「道徳科」の特質から求められる学習指導のあるべき姿を、正しく共通理解して、本質的な部分から改善・充実を図り、道徳教育の真の実質化を!!

参考

「特別の教科 道徳」の授業づくりのために

◎「特別の教科 道徳」の目標に対する正しい理解

(「主体的・対話的で深い学び」を基本とする学習活動)

「(前略)よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」

(学習指導要領)

という内容について正しく理解し、実践し、評価し、改善を加えていくことが大切!!

◇「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめる」ということ

誰による理解の基に見つめるのか?! 児童生徒一人一人の理解から ⇒ 厳密には、皆異なる!!
1時間の授業の中で何度見つめるのか?! 一度とは限らない!!

「自己内対話」=自分が自分に自分を問う(道徳科で特に大切な学習活動)

「道徳(どうとく)」に関する学習は、その特質上、「どう説く」すなわち教えられて分かる学習指導もさることながら、「どう解く」すなわち自ら求めて(主体的探求)解かる(納得解)学習指導が極めて重要

発問の4類型 共感的発問・分析的発問・投影的発問・批判(範例)的発問

永田繁雄(東京学芸大学)

◇「道徳的諸価値についての理解を基に、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える」ということ

一面的、表層的にならない考察。自分とは異なる感じ方・考え方等の交流による考察を!!

多面的に考えるとは?! 道徳的価値そのものが本質的に有している特性等の観点から考える。

例 「友情」

仲良くする、助け合う、理解し合う、信頼し合う、学び合う、励まし合う、高め合う etc

多角的に考えるとは?! 上記下線部以外の観点等から考える。

例 異なる立場から考えたり、時間や空間を変えて考えたりするなど、考える観点や条件を変えて多様な角度から考えること(～と違ってAさんの立場だったら・～しなかったとしたら等)
そのためにも、児童生徒の発言を傾聴して受け止め、

その発言等を生かした重層的発問(「問い返し」「切り返し」等)を工夫する。



確認(立場・対象) 根拠・理由 言い換え 具体化(例示) 批判・反例 条件変更(もし～)
(主語・目的語) (切り返し・ゆさぶり⇒本音)

◇「道徳的諸価値についての理解を基に、自己(人間としての)生き方についての考えを深める学習」ということ(下線部を相互に関連付ける ⇒ より深い理解・考え)

「道徳的価値や人間としての{自己の}生き方についての自覚」を深める学習

道徳科における発問をより効果的なものにするためには?! 主体的な学び

考える価値・必然性のある問いづくり(→広い視野から多面的・多角的な思考)⇔対話的な学び

- ◇ 考えたくなるような問い 考えざるをえない問い
 - ◇ これまでには考えたことのないようなことや観点から考えようとする問い 深い学び
 - ◇ 他の人の考えを聴きたくなるような問い
 - ◇ 自問・内省できるような問い
- (新たな視点の提示, 概念くだき, 問い返し, 揺さ振り, 価値葛藤, 心理的葛藤等)
- ◇ 自己の生き方や人間としての{自己の}生き方について深く考えられる問い